

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492000359	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	株式会社 メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう万田		
所在地	(254-0913) 神奈川県平塚市万田1丁目16-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和6年8月10日	評価結果 市町村受理日	令和6年10月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページでご覧いただけます。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設で暮らしながら、地域との関りを持って頂く為、折り紙や歌・傾聴・季節に合わせたレクリエーションなどを行って頂くボランティアを取り入れています。毎日のレクリエーションに加え、大きな声で歌ったり身体を動かしたり、楽しくお話できることが、皆様の活力になって頂けると考えております。また、季節の花や平塚では有名な七夕祭りなど、季節を感じて頂く為、ドライブにお連れしています。今年度は4月は桜、6月はアジサイ、7月は七夕と外出する機会を確保、少しでも気分転換して頂けるようにと考えています。外出中は、施設では見ることが出来ない表情を見ることが出来会話も増え、笑顔も多く見られております。8月は夏祭りを開催予定です。また、庭の畑には花の種や苗を皆様と一緒に植え、水まきなどをしながら、日々の成長を楽しまれています。コロナで中止していた面会も再開し、ご家族の方に気軽に来所して頂き、面会やご家族との外出を楽しまれています。イベントや日常の写真とコメントをつけたお便りを月に1度ご家族に送付しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年9月9日	評価機関 評価決定日	令和6年10月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅や学校、大型店舗などが混在した場所に位置しています。JR「平塚」駅からバスで20分ほどの郊外にあり、人々の生活を間近に感じることができる場所です。管理者は今年度交代しましたが、開設7年目で利用者も職員も長く留まっています。施設内は、清潔でゆったり落ち着いた雰囲気です。

<優れている点>

職員全員で話し合い、今年度新しい理念を策定しています。以前から「チームケア」をしっかり実践してきた経過を踏まえ、「その人らしい生活の支援」を理念として認識し、個々の利用者の状況をきちんと把握した上で、今ある機能を極力落とさず安全を図りながら、その人に応じた支援を実践しています。

勤務表作成は最小限の職員配置の中、各職員の事情を勘案しながら行っています。それぞれの気づきや意見は、業務の中で抵抗なく話され、ミーティングで取り上げて検討されるという流れが自然に行われており、職員の働きやすい環境作り、ひいては定着につながっています。

<工夫点>

内部研修の講師を交代で担当しています。職員自身の意識を高め、研修の効果をあげています。夏祭りや敬老会など自治会の行事へ積極的に参加し、地元住民との交流を深める努力をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者変更に伴い、事業所理念に「その人らしい生活の支援」を目標に掲げました。前管理者の時の「チームケア」を念頭に置きながら、日々のコミュニケーションを大切にしています。また、ミーティングでは会社の理念を唱和しそれと合わせて理念に基づいたケアを実践できるよう心がけています。	管理者交代に伴い、職員全員の意見を取り入れて理念を変更しています。前理念の「チームケア」が実践ができていることをベースに、個々の利用者に向けた柔軟な支援を提供していきと毎月のミーティングや日常業務を通じて職員全体に周知し、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、毎月地域の情報誌などをポストに入れて頂けるので、皆様に読んで頂いています。ボランティアの方も来られ、外部との関りの時間もコロナ前の様に多く頂いています。また、植物のお世話や日向ぼっこで外に出た際は通りかかった方とお話したりして楽しそうな様子も見られています。	地域情報は自治会を通じて得ています。コロナ禍が明けたこともあり、夏祭りや敬老会などの地域行事には、積極的な参加を心がけています。入居者が戸外で寛ぎながら、地域の人たちの生活の様子を眺め、時には声を掛け、会話を楽しんでいます。定期的なボランティアの訪問を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前はSNSで施設の行事や日常を投稿していましたが、現在は投稿できていません。8月から再開し、少しずつ投稿を始めています。投稿することで、施設の中の様子や、認知症の方でもこれまでと同じように生活しているということが発信できると考えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナも落ち着き、4月から2か月に一度の運営推進会議を再開しています。自治会長や管轄の地域包括支援センターの方に案内を出させて頂き、地域の情報の収集や、施設の利用状況や人員状況、行事の内容や事故等を報告している。	コロナ禍が明け、対面での開催を再開しています。外部からの参加は、コロナ禍以降地域包括支援センター職員のみとなっています。地域包括支援センターからは関連の情報提供を受けていますが、特段、意見等は出ていません。欠席者には事業所の活動内容や事故の状況等を報告しています。	運営やケアの質の向上を図るため、広く地域や利用者本人・家族等の意見を求めることが必要です。また、より地域交流を深めるためにも参加者を広げていく工夫が、期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナも落ち着き、社会福祉協議会主催のイベントにお誘いを頂き、9月にイベントに参加予定です。また、事業所内で起きた事故は市の指定の報告書にて知らせています。	市の担当課に、定期的に活動報告をする他、事故報告や認定区分更新の手続き等の相談をするなど、必要に応じて連絡を取っています。また、定期的に市から派遣される相談員の来訪があり、職員や利用者とは様々な話を活発にする機会を持っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一度、事業所内で身体拘束廃止委員会を開き、研修を行っています。講師となる職員は当番制にし、自身が調べて発表することで、自分の勉強にもなり、2ユニット同時に行うことでコミュニケーションが生まれ、情報の共有ができ、身体拘束をしないケアに努めています。	事業所内で身体拘束廃止委員会を定期開催しています。身体拘束の実態はなく、身体拘束に関する職員研修の場として委員会を活用しています。非常勤職員も含め交代で研修の講師を務め、担当の職員は事前に学習して臨むことで、身体拘束防止の意識を高め、身体拘束をしない支援に繋がっています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	6か月に一度、事業所内で虐待防止委員会を開き、研修を行っています。その他にも、eラーニングでの動画研修や、会社独自の事例検討会などを行い、虐待の種類や事例などを繰り返し学習し、虐待防止に努めています。	ユニット合同で年2回、虐待防止委員会を研修を兼ねて開催しています。職員が交代で講師を担当し、特にスピーチロックについてはお互いの意識が高まり、改善に繋がっています。また虐待防止に係る一斉点検シートでの振り返り、働きやすい職場作りにも努め虐待防止を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前、実際に成年後見人がついている利用者が出て、その方の見取りケアをしたときに後見人とのやり取りを職員もする機会がありました。今後後見人がついた利用者がいた場合には、役割などの周知を再度行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明し、不明な点や質問は最後に確認しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族ラインでこまめな連絡を取り合っています。ライン登録していない家族とは電話にて連絡を取り合っています。外部評価のアンケート内容なども職員と共有しています。	毎月の利用者の様子を知らせるお便りを始め、必要な連絡を家族とこまめに取っています。面会時に家族の意見を聞くようにしていますが、更に機会を増やしたいと考えています。外部評価での家族アンケート結果を職員全体で共有し、必要に応じて改善を図っています。	家族に運営推進会議や行事などへの参加を働きかけ、家族等の意見を更に引き出す機会を増やしていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のミーティングや、面談などで職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月開催している全職員によるミーティングは情報共有や意見交換の貴重な場となっています。業務中の職員間の気づきやフランクな話し合いなどは、リーダー会議を経てミーティングで共有し業務改善等に繋げています。その他、個別に管理者等との面談も行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は常にリーダーや管理者に意見を言える環境を作っています。何か意見があるときにはミーティングで遠慮なく発言でき、解決に向けて改善案などの話し合いも行っています。	運営や介護方法等についての気づきや意見は、職員同士日常的にお互いに自由に発言し合い、改善できることは改善しています。シフトは職員の個人的事情も勘案して組み、職員が働きやすい環境となっています。その結果、支援は利用者個人に合わせてゆったりと提供されています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社員・パートに限らず、定期的に行っている委員会の講師を当番制にしています。職員自身が調べ、発表することで学習できる環境を作っています。また、1・2階合同で開催するため、お色々な意見が出て、他フロア同士の情報共有の場になっています。	虐待防止、感染症対策、事故防止等の委員会兼研修会を月1回のミーティングの時間を活用して全職員で行っています。講師を職員が交代で担当することで職務への理解が深まり、効果を上げています。その他法人が指定する必須の研修を各自eラーニングで受講しています。	今後、介護技術に関する研修も内部研修に取り入れる必要があると考えています。介護サービスの更なる質の向上に向けた取組を期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の延長線により交流はできていません。月に一度の管理者会には参加し他事業所と情報共有をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所された最初は、不安や要望などを話すことが出来ない利用者も多いと思います。自己紹介や優しい声掛け、ひとまず安心して「ここにいていいんだ」と思って頂ける関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族とも面談し、意向の確認を行っています。家族からの質問や不安などに耳を傾け、安心して頂けるよう丁寧に答え、説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や問い合わせの時点で、入所を希望されても、アセスメントを行っている段階で見極め、違う施設やサービスを提案させて頂く事もあります。実際に併設の小規模への利用を進めたこともありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の要望にはその都度耳を傾けています。食事の準備や後片付け、清掃や洗濯などを一緒に行うことで本人が役に立ちたい、できることはやりたいという気持ちを大事にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	整形外科や眼科など家族対応の定期的な受診の連絡、買い物や面会等の連絡は電話やラインでやり取りしています。施設側だけの支援ではなく、できる限り家族様も関わって頂き、面会などにも頻繁に来ていただけるようお話しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の古い友人やしばらくお会いしていない親せきの方やご兄弟など、コロナが明けて面会の連絡をくれることがあります。ご家族に確認し面会もして頂いています。	古い知人等から、稀に利用者の存否や面会について問合せがありますが、基本的には家族の意向を確認した上で、面会等の調整をしています。旧知の場所や人との関係継続支援は、コロナ禍が明けたこともあり、家族と話し合いながら支障がない範囲で行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人で過ごす時間を大切にしている方も多いですが、こまめに声掛けしフロアでなじみの方と過ごされることも多いです。以前は仲良く会話をしていた方々も、お互いの身体レベルの低下により会話が困難となっても、職員が間に入ることにより会話を楽しんで頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前は手紙が来たりしていましたが、現在はそのようなやり取りはありません。ご相談などがあれば対応します。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人がそれまでしていたことを取り入れながら生活して頂いています。集団でレクリエーションなどを行うことが多いですが、集団が苦手な方は個別で行ったりもしています。また、本人の生活リズムを尊重しながら、身体機能の維持に努め、利用者自身でできることの継続を支援しています。	利用者がこれまで過ごしてきた生活の延長として、無理なく暮らせるよう努めています。居室内や入浴時に職員と1対1になった時、昔の生活の様子や好きな事を聞いています。困難な場合は、日頃の生活において、ポロッと出る言葉、好きな物などを大切にして支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前には事前に情報の共有をしています。本人やご家族の話しから知りえるその方の生活歴などを共有し把握に努めています。日々のコミュニケーションの中で分かることもたくさんあり、穏やかに安定した生活ができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その方の習慣や好きなことを取り入れながら、お過ごし頂いています。職員は、一人一人にこまめに声掛けしながら日々の状態変化を記録に残し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成の担当者は、ミーティングのときに職員に意見を聞き、その方の状況に合わせて介護計画の作成をしています。ご家族の方に参加してもらうことはしていませんが、ラインでのやり取りや面会などで意見があれば反映することもあります。	毎月のミーティングで、利用者の今出来ている事が維持でき、過剰な介護にならないよう、職員全員で意見を出し合っています。半年ごとのプラン更新時には、家族に対面で生活の様子を報告し、どのように過ごして欲しいかを聞き、意見や要望を反映したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケア記録にその都度記録してまます。事故やヒヤリハットなどは専用の用紙に記入し共有できるようにしています。月に一度のミーティングで日々の変化や気づきを話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	これまでその方が大切にしてきた趣味、できることややりたいこと、役割など、計画書へ反映しています。その都度ミーティングで情報収集し、半年に1度計画書の見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者がやりたいことをできる環境をなるべく作っています。得意なことややりたいことをなるべくできるお手伝いをしながら、役割をもち、安全に楽しみながら生活できる支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回往診に来ていただき、一人一人の体調の情報共有をしています。その際医師の診察を行い、何かあればお薬を処方して頂き、体調管理をしています。また、随時体調に変化があればFAXや電話で指示を仰ぎ対応しています。	入居時に家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医にしています。急な体調変化には電話で相談し細かい指示をもらっています。また、家族や職員と共に、病院で説明を聞くなど、安心して生活出来るよう支援しています。専門医の受診には、家族と相談の上同行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医の先生や看護師とも密に連絡を取り合い情報を共有し、指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へ情報提供し、入院中の情報を頂いています。可能な限り病院へ行き、直接担当ナースと話をし経過や今後のことについて相談しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	知慮方針や家族の希望により医療行為が必要になったときは、対応できる施設へ移動して頂くが、あくまで延命処置を希望されなかったり主治医の判断でこちらで終末期を迎える時にはムンテラを行い十分に話し合いをし家族の意向と治療方針を相談しています。	初めから積極的な看取りを考えているのではなく、利用者が重度化した時に、改めて主治医は家族に病状の説明をしています。医療を希望し、医療機関に移るのか、また、延命せずこのまま住み慣れたホームで過ごすのか話し合い、家族、本人の望む場所で最期を迎えられるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急対応のマニュアルを作成し、その通りに職員全員が対応できるようにしています。事故報告の連絡をする順番や連絡先も職員は把握し対応できています。先日は実際に事例をあげ、クイズ形式で研修を実施しています。救急搬送時の持ち物や、連絡先など確認しました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一度避難訓練を実施しています。地震・水害・火災などを想定し、実際に駐車場まで避難する訓練も行っています。また、実施に通報訓練なども行い、慌てることなく対応できるよう備えています。非常用の物品は各階分かつところに設置しています。	消防署の協力により、併設の小規模多機能型事業所と合同で消火訓練を行っています。地震を想定し、ヘルメットを被り、リビングのテーブルの下への避難や、職員2人で利用者をシートに包み2階の非常階段から地上へ降りる方法を計画しています。「一時持ち出しリュック」には懐中電灯、ラジカセ、電池等を入れて備えています。	特に夜間災害時の避難や災害に備える備蓄品の充実について、安心安全をどう図るか、今後の工夫が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その場に応じた言葉遣いを選択し、利用者の尊厳を保ちながらも、親しみを持って頂けるよう努めている。被害妄想がある利用者には、決して否定せず傾聴し対応している。個人情報がかかっているファイルは鍵付きのキャビネットにて保管している。	トイレ介助は、安全に座ったのを確認後ドアの外で待ち、また同性介助に応じるなど利用者の羞恥心に配慮しています。研修で人格を損なわない言葉かけについて学んでいます。強い口調になったり、不適切な言葉かけは、職員間で注意し合い、利用者が安心して生活出来るよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日ごろから、利用者が要望や思いを話して頂ける関係性を築き、何か困っていることがあればいくつか選択肢をお話しし、ご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設でできることは限られている為、レクリエーションの参加を促したり、外へ日向ぼっこや外出にお誘いの声掛けをすることはありますが、決して無理強いはしません。片方では皆さんでレクを行い、片方ではおひとりで集中してお好きな塗り絵を行うということもあり、基本的には自由に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者によっては、お風呂の準備はご自分で行っています。やむを得ず職員が準備する場合でも、誕生日などご家族にプレゼントされた洋服などを選ぶととても喜ばれます。3か月に1度くらいのペースで理美容の方が来所され、利用者の要望を聞きながらカットをしていただいています。カラーをご希望される方もいるので実施して頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事をメインで作るのは職員ですが、料理がお好きな方にはエプロンもして頂き、盛り付けやもやしのひげ取り、大根をおろして頂いたり、ご自宅で料理していた頃の話も聞きながら楽しみながらお手伝いして頂いています。月に1度皆様からリクエストを聞いて、お楽しみランチの提供もしています。	月1回お楽しみランチがあります。利用者のリクエストに応え、ラーメン、ピザ、ハンバーガーなどを注文し、特に寿司のテイクアウトは人気があり喜ばれています。夏祭りでは、焼きそば、フランクフルトなどを屋台風にならべ、それぞれ好きな物を選ぶなど、お祭り気分を味わえるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は職員が調理をして提供しています。その方の状態に応じて一口大に刻んで食べて頂きやすいようにしています。「トイレが近くなる」と水分を摂らない方もいますが、その都度声掛けしながらなるべく摂って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛けし歯磨きを行って頂いています。希望者には週に1度～月に1度の口腔外科の診察もあり、歯石の除去や入れ歯の調整をして頂いています。また、歯磨きの仕方や汚れがたまりやすい所を教えて頂き、毎食後の声掛けをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の身体状況や排尿のタイミングなどにより、やむを得ずおむつや尿取りパットを使用する例もありますが、定時でトイレ誘導し排泄を促すことで、オムツを使用しなくても済んでいる例もあります。排泄の失敗などが目立ってきたタイミングで、ミーティングなどで話し合い、最善の方法でできるだけオムツなどを使用しない方法を話し合っています	自立度が高い布パンツの利用者は、着替えた下着などを入れるカゴを部屋に置いています。朝、職員が洗濯をして午後には自分でたたんで収納し、自立を促す支援をしています。毎日の体操では足を使う運動を行い、下肢筋力を維持して歩いてトイレに行き、排泄が出来るよう支援しています。定時のトイレ誘導により、便失禁が減った事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	服薬で排便コントロールを行っている方も多いですが、内田クリニックに相談し調整しながら服用しています。また、バランスの良い食事と適度な水分摂取、レクリエーションなどでは体操などで身体を動かしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の配置の関係で、入浴の時間はこちらで決めています。週に2回の入浴を行い、1日3名なので、一人一人ご自身のペースでゆっくり入って頂いています。拒否の方は時間をおいて声掛けしたり入れない時には職員同士共有し、清潔の保持に努めています。	浴槽内の滑り止めマットや、浴槽をまたぐための手摺を備え、安全な環境を整えています。一人での入浴を希望する利用者は、羞恥心に配慮して、浴室の外から見守っています。個人用の足ふきマットを用意し、衛生面に配慮しています。季節のゆず湯などを工夫し、入浴は気持ちよいと思ってもらえるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の習慣や体調に合わせて午後から居室で臥床する時間を作っています。安心して休んでいただけるよう、何かあったら声をかけて下さいとお伝えして退室しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方される薬は、何のために服用を開始するのか、それに伴う副作用の可能性、服用のタイミングなどは共有ノートに記載し共有しています。また、飲み始めてからの変化や症状などは都度記録に残し、提携のクリニックに随時報告できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理が得意な方には調理の際盛り付けや味見、もやしのひげ取りをしていただいたり、お掃除が好きな方にはテーブルを拭いていただいたり洗濯物を畳んでいただくなど、好きなことや得意な事を生かして楽しみながら役割を持っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月に一度、ドライブなどの外出をしたり、晴れた日には庭やベランダに出て花を見たりベンチに座っておやつを召し上がったりしています。また、ご家族と一緒に外食やご自宅にお出かけることもあります。	7月の「平塚七夕祭り」は利用者全員で参加する一大イベントになっています。平塚住民の利用者には馴染みの場所であり、懐かしい風景になっています。家族の面会時、近所のスーパーマーケットで買い物をしたり、正月には一時帰宅をしています。外の空気に触れることで、気分転換やストレス発散の良い機会になるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の金銭管理は施設側で行っており、トラブル防止の為利用者はお金の管理はしていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話があればご本人とかわってお話をさせていただいていますが、本人自ら電話をしたいという要望が聞かれない為実施したことはありません。お手紙も定期的に送られてくるご家族もいる為お渡ししています。何か要望がある時にはラインでお伝えしているのみでお手紙のやり取りなどはしていません		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアや廊下、居室は毎日掃除機をかけてモップがけをしており、清潔を保っています。また、壁には皆様で制作した季節にあった壁紙を貼ったり、庭で育てた花を花瓶に入れて飾ったり、明るい雰囲気作りに努めています。	掃除の行き届いた清潔な空間となるよう努めています。リビングの壁には折り紙ボランティアと一緒に折ったトンボや朝顔、ペットボトルを利用して作った風鈴を飾り、季節感を表わしています。レクリエーションより掃除をしている方が好きな人、また集団が苦手な人が好きな塗り絵に集中したりして個別に過ごし、それぞれが居心地よく、自由に過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はフロアや自室でご自由に過ごしていただいています。仲の良い方同士は席を近くにし、フロアで過ごす際は楽しく話ができる環境を作っています。また、一人で過ごしたい方は自由に自室で本を読んだりテレビを見たりする時間を大切にしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドとクローゼット以外はご自身の使い慣れた物をご持参いただき使用して頂いています。毎朝の掃除機がけや、担当者が利用者と確認しながら衣替えや清掃などをしますが、一人一人の生活の場でプライベートの場ということを忘れず行っています。	ベッドから起きて、隣のトイレまで伝い歩き出来るように動線に椅子を配置したり、また手にアザが出来ないように、ベッド柵にタオルを巻くなど、安全な生活に配慮しています。居室のテレビで好きな昭和歌謡を聞いたり、新聞を切り抜いて作ったスクラップブックを眺めたりなど自由に過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーで安全に過ごせる環境になっています。例えばできるだけご自分の洗濯物は畳んで頂き、自室のクローゼットに戻して頂いている。転倒のリスクなどある方でもできる限りご自身のことができるよう必要な所はお手伝いをしながら行って頂いています。		

事業所名	グループホーム幸せふくろう万田
ユニット名	くすのき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者変更に伴い、事業所理念に「その人らしい生活の支援」を目標に掲げました。前管理者の時の「チームケア」を念頭に置きながら、日々のコミュニケーションを大切にしています。また、ミーティングでは会社の理念を唱和しそれと合わせて理念に基づいたケアを実践できるよう心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、毎月地域の情報誌などをポストに入れて頂けるので、皆様に読んで頂いています。ボランティアの方も来られ、外部との関りの時間もコロナ前の様に多く持っていただいています。また、植物のお世話や日向ぼっこで外に出た際は通りかかった方とお話したりして楽しそうな様子も見られています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前はSNSで施設の行事や日常を投稿していましたが、現在は投稿できていません。8月から再開し、少しずつ投稿を始めています。投稿することで、施設の中の様子や、認知症の方でもこれまでと同じように生活しているということが発信できると考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナも落ち着き、4月から2か月に一度の運営推進会議を再開しています。自治会長や管轄の地域包括支援センターの方に案内を出させて頂き、地域の情報の収集や、施設の利用状況や人員状況、行事の内容や事故等を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナも落ち着き、社会福祉協議会主催のイベントにお誘いを頂き、9月にイベントに参加予定です。また、事業所内で起きた事故は市の指定の報告書にて知らせています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一度、事業所内で身体拘束廃止委員会を開き、研修を行っています。講師となる職員は当番制にし、自身が調べて発表することで、自分の勉強にもなり、2ユニット同時に行うことでコミュニケーションが生まれ、情報の共有ができ、身体拘束をしないケアに努めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	6カ月に一度、事業所内で虐待防止委員会を開き、研修を行っています。その他にも、eラーニングでの動画研修や、会社独自の事例検討会などを行い、虐待の種類や事例などを繰り返し学習し、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前、実際に成年後見人がついていない利用者が出て、その方の見取りケアをしたときに後見人とのやり取りを職員もする機会がありました。今後後見人がついた利用者がいた場合には、役割などの周知を再度行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明し、不明な点や質問は最後に確認しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族ラインでこまめな連絡を取り合っています。ライン登録していない家族とは電話にて連絡を取り合っています。外部評価のアンケート内容なども職員と共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のミーティングや、面談などで職員の意見を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は常にリーダーや管理者に意見を言える環境を作っています。何か意見があるときにはミーティングで遠慮なく発言でき、解決に向けて改善案などの話し合いも行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社員・パートに限らず、定期的に行っている委員会の講師を当番制にしています。職員自身が調べ、発表することで学習できる環境を作っています。また、1・2階合同で開催するため、お色々な意見が出て、他フロア同士の情報共有の場になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の延長線により交流はできていません。月に一度の管理者会には参加し他事業所と情報共有をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所された最初は、不安や要望などを話すことが出来ない利用者も多いと思います。自己紹介や優しい声掛け、ひとまず安心して「ここにいていいんだ」と思って頂ける関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族とも面談し、意向の確認を行っています。家族からの質問や不安などに耳を傾け、安心して頂けるよう丁寧に答え、説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や問い合わせの時点で、入所を希望されても、アセスメントを行っている段階で見極め、違う施設やサービスを提案させて頂く事もあります。実際に併設の小規模への利用を進めたことありました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の要望にはその都度耳を傾けています。食事の準備や後片付け、清掃や洗濯などを一緒に行うことで本人が役に立ちたい、できることはやりたいという気持ちを大事にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	整形外科や眼科など家族対応の定期的な受診の連絡、買い物や面会等の連絡は電話やラインでやり取りしています。施設側だけの支援ではなく、できる限り家族様も関わって頂き、面会などにも頻繁に来ていただけるようお話しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の古い友人やしばらくお会いしていない親せきの方やご兄弟など、コロナが明けて面会の連絡をくれることがあります。ご家族に確認し面会もして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人で過ごす時間を大切にしている方も多いですが、こまめに声掛けしフロアでなじみの方と過ごされることも多いです。以前は仲良く会話をしていた方々も、お互いの身体レベルの低下により会話が困難となっても、職員が間に入ることにより会話を楽しんで頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前は手紙が来たりしていましたが、現在はそのようなやり取りはありません。ご相談などがあれば対応します。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人がそれまでしていたことを取り入れながら生活して頂いています。集団でレクリエーションなどを行うことが多いですが、集団が苦手な方は個別で行ったりもしています。また、本人の生活リズムを尊重しながら、身体機能の維持に努め、利用者自身でできることの継続を支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前には事前に情報の共有をしています。本人やご家族の話しから知りえるその方の生活歴などを共有し把握に努めています。日々のコミュニケーションの中で分かることもたくさんあり、穏やかに安定した生活ができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その方の習慣や好きなことを取り入れながら、お過ごし頂いています。職員は、一人一人にこまめに声掛けしながら日々の状態変化を記録に残し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成の担当者は、ミーティングのときに職員に意見を聞き、その方の状況に合わせて介護計画の作成をしています。ご家族の方に参加してもらうことはしていませんが、ラインでのやり取りや面会などで意見があれば反映することもあります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケア記録にその都度記録してます。事故やヒヤリハットなどは専用の用紙に記入し共有できるようにしています。月に一度のミーティングで日々の変化や気づきを話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	これまでその方が大切にしてきた趣味、できることややりたいこと、役割など、計画書へ反映しています。その都度ミーティングで情報収集し、半年に1度計画書の見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者がやりたいことをできる環境をなるべく作っています。得意なことややりたいことをなるべくできるお手伝いをしながら、役割をもち、安全に楽しみながら生活できる支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回往診に来ていただき、一人一人の体調の情報共有をしています。その際医師の診察を行い、何かあればお薬を処方して頂き、体調管理をしています。また、随時体調に変化があればFAXや電話で指示を仰ぎ対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医の先生や看護師とも密に連絡を取り合い情報を共有し、指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へ情報提供し、入院中の情報を頂いています。可能な限り病院へ行き、直接担当ナースと話をし経過や今後のことについて相談しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	知慮方針や家族の希望により医療行為が必要になったときは、対応できる施設へ移動して頂くが、あくまで延命処置を希望されなかったり主治医の判断でこちらで終末期を迎える時にはムンテラを行い十分に話し合いをし家族の意向と治療方針を相談しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急対応のマニュアルを作成し、その通りに職員全員が対応できるようにしています。事故報告の連絡をする順番や連絡先も職員は把握し対応できています。先日は実際に事例をあげ、クイズ形式で研修を実施しています。救急搬送時の持ち物や、連絡先など確認しました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一度避難訓練を実施しています。地震・水害・火災などを想定し、実際に駐車場まで避難する訓練も行っています。また、実施に通報訓練なども行い、慌てることなく対応できるよう備えています。非常用の物品は各階分かるところに設置しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その場に応じた言葉遣いを選択し、利用者の尊厳を保ちながらも、親しみを持って頂けるよう努めている。被害妄想がある利用者には、決して否定せず傾聴し対応している。個人情報がかかっているファイルは鍵付きのキャビネットで保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日ごろから、利用者が要望や思いを話して頂ける関係性を築き、何か困っていることがあればいくつか選択肢をお話しし、ご本人に決めて頂いてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設でできることは限られている為、レクリエーションの参加を促したり、外へ日向ぼっこや外出にお誘いの声掛けをすることはありますが、決して無理強いはしません。片方では皆さんでレクを行い、片方ではおひとりで集中してお好きな塗り絵を行うということもあり、基本的には自由に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者によっては、お風呂の準備はご自分で行っています。やむを得ず職員が準備する場合でも、誕生日などご家族にプレゼントされた洋服などを選ぶととても喜ばれます。3か月に1度くらいのペースで理美容の方が来所され、利用者の要望を聞きながらカットをしていただいています。カラーをご希望される方もいるので実施して頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事をメインで作るのは職員ですが、料理がお好きな方にはエプロンもして頂き、盛り付けややさしのひげ取り、大根をおろして頂いたり、ご自宅で料理していた頃の話も聞きながら楽しみながらお手伝いして頂いています。月に1度皆様からリクエストを聞いて、お楽しみランチの提供もしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は職員が調理をして提供しています。その方の状態に応じて一口大に刻んで食べて頂きやすいようにしています。「トイレが近くなる」と水分を摂らない方もいますが、その都度声掛けしながらなるべく摂って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛けし歯磨きを行って頂いています。希望者には週に1度～月に1度の口腔外科の診察もあり、歯石の除去や入れ歯の調整をして頂いています。また、歯磨きの仕方や汚れがたまりやすい所を教えて頂き、毎食後の声掛けをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の身体状況や排尿のタイミングなどにより、やむを得ずおむつや尿取りパットを使用する例もありますが、定時でトイレ誘導し排泄を促すことで、オムツを使用しなくても済んでいる例もあります。排泄の失敗などが目立ってきたタイミングで、ミーティングなどで話し合い、最善の方法でできるだけオムツなどを使用しない方法を話		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	服薬で排便コントロールを行っている方も多いですが、内田クリニックに相談し調整しながら服用しています。また、バランスの良い食事と適度な水分摂取、レクリエーションなどでは体操などで身体を動かしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の配置の関係で、入浴の時間はこちらで決めています。週に2回の入浴を行い、1日3名なので、一人一人ご自身のペースでゆっくり入って頂いています。拒否の方は時間をおいて声掛けしたり入れない時には職員同士共有し、清潔の保持に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の習慣や体調に合わせて午後から居室で臥床する時間を作っています。安心して休んでいただけるよう、何かあったら声をかけて下さいとお伝えして退室しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方される薬は、何のために服用を開始するのか、それに伴う副作用の可能性、服用のタイミングなどは共有ノートに記載し共有しています。また、飲み始めてからの変化や症状などは都度記録に残し、提携のクリニックに随時報告できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理が得意な方には調理の際盛り付けや味見、もやしのひげ取りをしていただいたり、お掃除が好きな方にはテーブルを拭いていただいたり洗濯物を畳んでいただくなど、好きなことや得意な事を生かして楽しみながら役割を持っていただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月に一度、ドライブなどの外出をしたり、晴れた日には庭やベランダに出て花を見たりベンチに座っておやつを召し上がったりしています。また、ご家族と一緒に外食やご自宅にお出かけすることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の金銭管理は施設側で行っており、トラブル防止の為利用者はお金の管理はしていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話があればご本人とかわってお話をさせていただいていますが、本人自ら電話をしたいという要望が聞かれない為実施したことはありません。お手紙も定期的に送られてくるご家族もいる為お渡ししています。何か要望がある時にはラインでお伝えしているのみでお手紙のやり取りなどはしていません		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアや廊下、居室は毎日掃除機をかけてモップがけをしており、清潔を保っています。また、壁には皆様で制作した季節にあった壁紙を貼ったり、庭で育てた花を花瓶に入れて飾ったり、明るい雰囲気作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はフロアや自室でご自由に過ごしていただいています。仲の良い方同士は席を近くに、フロアで過ごす際は楽しく話ができる環境を作っています。また、一人で過ごしたい方は自由に自室で本を読んだりテレビを見たりする時間を大切にしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドとクローゼット以外はご自身の使い慣れた物をご持参いただき使用して頂いています。毎朝の掃除機がけや、担当者が利用者と確認しながら衣替えや清掃などをしますが、一人一人の生活の場でプライベートの場ということを忘れず行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーで安全に過ごせる環境になっています。例えばできるだけご自分の洗濯物は畳んで頂き、自室のクローゼットに戻して頂いている。転倒のリスクなどある方でもできる限りご自身のことができるよう必要な所はお手伝いをしながら行って頂いています。		

2024年度

事業所名 グループホーム幸せふくろう万田
作成日： 2024 年 10 月 5 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	2カ月に1度運営推進会議を行っているが、参加者が限られており、地域交流があまり深められていない。	運営やケアの質の向上を図る為、自治会の方や民生委員、ご家族様など幅を広げて参加を促す。	10月からの運営推進会議にはこれまで通り自治会長にご案内を送り、難しければ役員の方などに参加して頂く様声をかける。ご家族の方にもご案内をす	3ヶ月
2	16	夜間想定避難訓練の実施をしていない。	夜間想定避難訓練を実施する。	夜勤者2名と小規模多機能の職員1名とで夜間を想定した避難訓練を実施する。避難誘導の訓練や、非常階段を使った訓練なども実施予定。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月